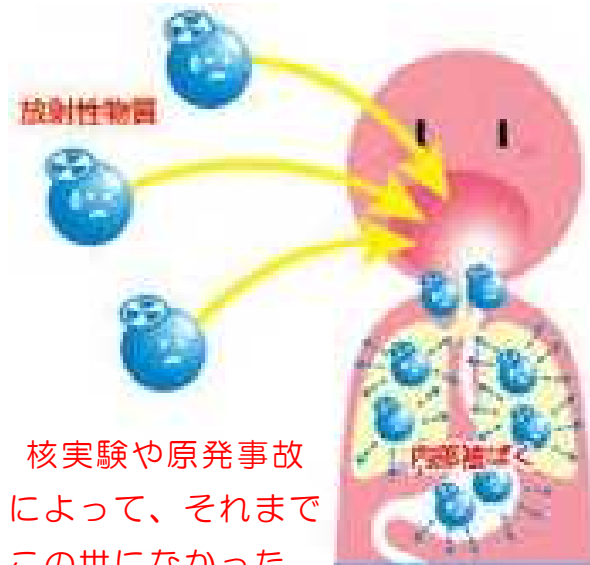


2011年3月に起きた福島第一原発事故は収束せず、放射能汚染は今も静かに広がっています。事故から30年以上たったチェルノブイリからは深刻な健康被害が報告されています。そのほとんどは食べ物からの内部被ばくによるものであると言われています。



核実験や原発事故によって、それまでこの世になかった

人工の放射性物質を私たちは日常的に摂取するようになりました。

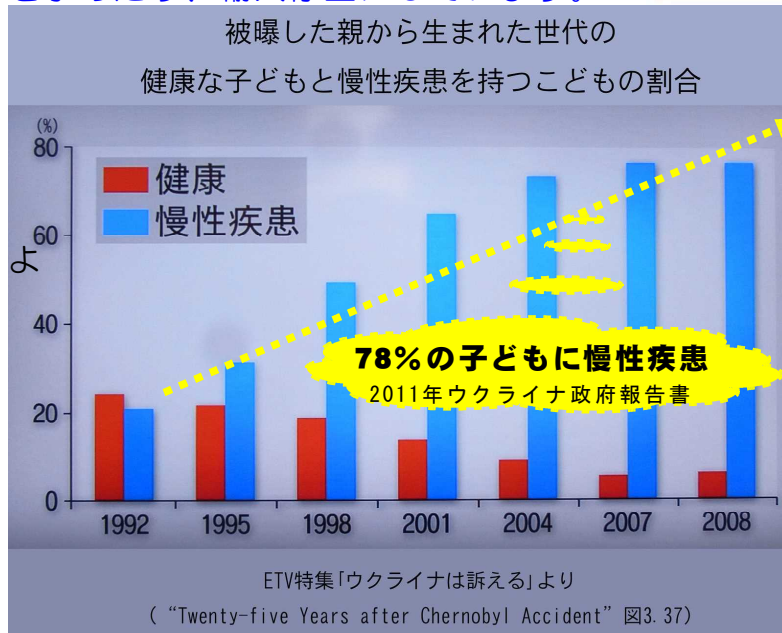
原発事故後、体内に取り込むリスクは格段に高くなり、国が安全という基準値は事故前の摂取量と桁違いです。

4.12.2017 現在

今でも約50の国々で日本の食品に証明書を求めたり、輸入停止にしています。

	単位	事故前 (H20 年度) の食品放射線量*	厚生労働省 H24 年度基準値	
上水	Bq/L	0.00004	10	25万倍
汚染は11都県にわたり東京都新宿区で1.7ミリベクレル(2016年1~3月)				
米	Bq/kg	0.012	100	8,300倍
根菜	Bq/kg	0.008	100	12,500倍
葉菜	Bq/kg	0.016	100	6,300倍
牛乳	Bq/L	0.012	50	4,200倍
魚類	Bq/kg	0.091	100	1,100倍
製茶 (乾燥)	Bq/kg	0.240	100	420倍
日常食	Bq/人/日	0.019	?	

*セシウム 137 の値です。厚生労働省基準値はセシウム測定値です。
 福島原発事故前は明確な基準値がなかったので全国の食品のセシウム平均値を示した。
 出典：日本分析センター平成 20 年度事業報告書より。
<http://www.jcac.or.jp/uploaded/attachment/57.pdf>



チェルノブイリでは事故後、年を追うごとに病気の子が増えてきました。線量が低くても長期間、放射線を浴び続ければ世代をまたがって健康被害が広がる可能性を示唆しています。

放射能汚染は福島県だけでなく、東日本一帯に広がり、チェルノブイリより高汚染の地域にも多くの人々が暮らしています。西日本にも様々な形で放射性物質が流れ込んでいます。



原発事故前(2010年)に比べ事故後(2013年)、様々な病気が日本各地で急激に増加しています。

甲状腺ガン 福島 228% 茨城 226% 群馬 217% 宮城 161% 東京 157% 大阪 160% 全国 148%
 心筋梗塞 福島 133% 茨城 173% 群馬 153% 宮城 151% 東京 180% 大阪 156% 全国 151%
 急性白血病 福島 213% 茨城 129% 群馬 310% 宮城 126% 東京 132% 大阪 187% 全国 142%

落合栄一郎氏「福島第一原子力発電所事故による健康被害」(2015年9月)より

